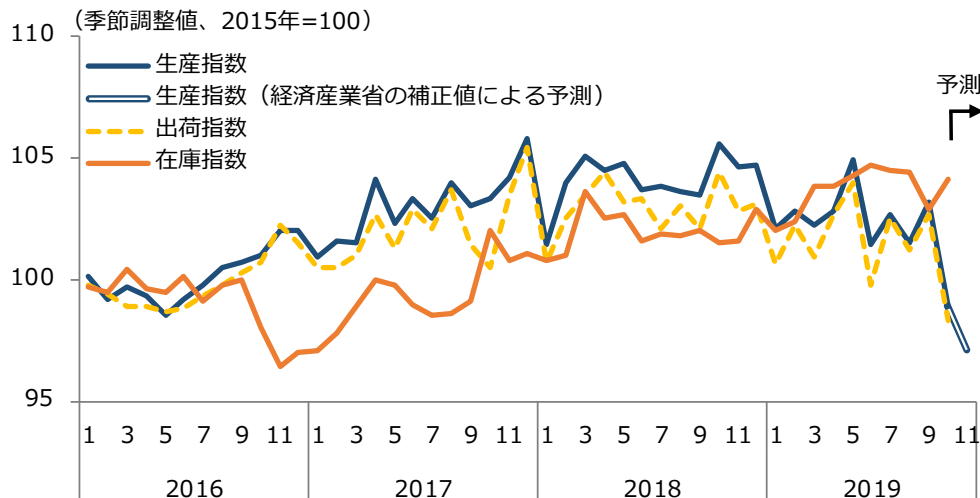


日本

鉱工業生産指数 (2019年10月)

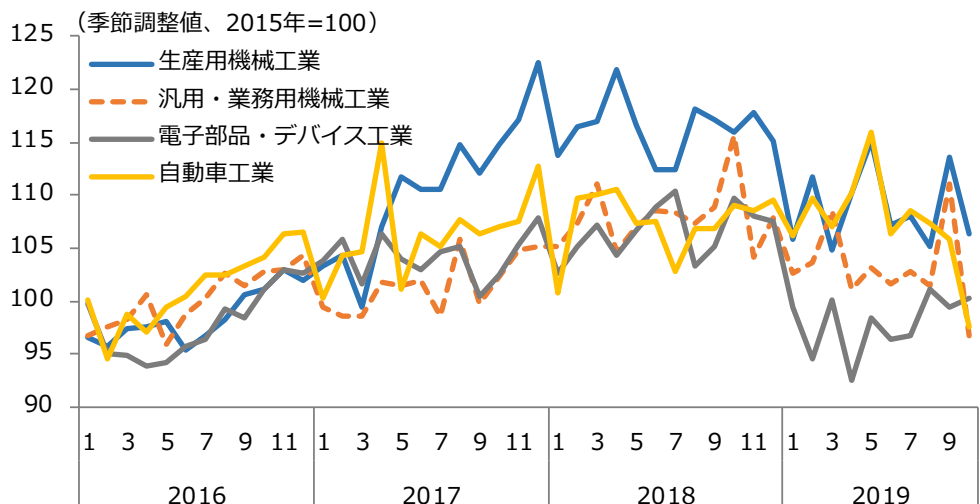
台風19号や消費税増税を背景に、生産は大幅に減少

1 鉱工業指数 (生産・出荷・在庫)



出所：経済産業省「鉱工業指数」「製造工業生産予測指数」

2 業種別の生産指数



出所：経済産業省「鉱工業指数」

評価ポイント

今回の結果

- 10月の鉱工業生産指数 (速報) は、季調済前月比▲4.2%と大幅に低下、16年5月以来の低水準となった。
- 業種別にみると、15業種のうち12業種が低下。汎用・業務用機械工業 (季調済前月比▲13.0%) や生産用機械工業 (同▲6.4%) は、輸出の低調な推移に加え、高い伸びとなった前月からの反動もあり、大幅に低下した。
- 電子部品・デバイス工業 (同+0.9%) は、世界的な半導体関連需要に下げ止まり感が出てくるなか、19年半ば以降は持ち直しつつある。
- 自動車工業 (同▲7.8%) は、台風19号による工場稼働の一時停止や消費税増税後の新車販売の落ち込みなどを背景に、10月は大幅な低下となった。
- 製造工業生産予測調査によると、19年11月の生産は季調済前月比▲1.5%と見込まれている。予測値に対する実績値の平均的なズレを経済産業省が補正した値は同▲1.8%程度であり、11月の生産は減少が予想される。

基調判断と今後の流れ

- 生産指数は、輸出の低調な推移が重石となり低下基調で推移するなか、10月は台風19号や消費税増税が下押し圧力となり、大幅な低下となった。
- 先行きも、生産指数の低調な推移を予想する。国内向けでは、消費税増税後に国内需要の伸び鈍化が予想され、生産の抑制要因になろう。海外向けでは、海外経済の減速などを背景に、生産に占める輸出比率が高い電子部品・デバイス工業や生産用機械工業、汎用・業務用機械工業、自動車工業などで弱い動きが続くと見込まれる。
- 生産の下振れリスクとしては、①米中摩擦の激化などによる世界経済の一段の減速、②輸出減少の波及や株安などによる国内需要の悪化、③金融市場における円高の進行、④消費税増税後の消費の低迷長期化などが挙げられる。